

祭礼名称

常陸大津の御船祭 (ひたちおおつのおふねまつり)

- 実施日 令和6年5月2日、3日
※2日は宵祭り、3日は本祭り。
- 場所 茨城県北茨城市 大津漁港周辺

祭りの概要

茨城県北茨城市大津町に鎮座する佐波波地祇神社(さわわちぎじんじゃ)の春の例大祭。5年に1度の例大祭(たいさい)では、神社の神が浜降り(はまおり)します。神輿を船に載せて陸上渡御した後、海水で清める「潮垢離(しおごり)」の儀式が行われます。



佐波波地祇神社 拜殿

みどころ

—— 全国に類例がない“漁船の陸上渡御”

この祭りのみどころは、なんといっても、御神輿を戴(いただ)いた「神船(しんせん)」と呼ばれる船を、500人ほどの人力だけで曳き回す場面です。かつては、実際に漁撈で使われていた木造船を使うのがならわしでした。現在は、お祭り用に建造した木造船を使用していますが、このお祭りのように、実際に漁で使われた船が、海上でなく、陸上での神輿渡御に使われるのは、極めて珍しいことです。さらに、この祭り最大の特徴は、船の下に車が付いていないことです。一般に、各地にみられるお祭りに登場する屋台や山車には、大なり小なりの車がついていると思いますが、この祭りで曳く船の底には、そういうものが一切付いていません。つまり、海で使われた船を、「そのまま」の形で、陸上で曳き回すのです。これとまったく同じ形の祭りは、いまのところ、全国でも類例がみつかっていません。平成24年度に、北茨城市の教育委員会が、全国に1900件近くある自治体にアンケートを出して調査しました。その結果、「船または船の形をしたつくりもの」を曳く祭りが、日本国内に302件あることがわかったのですが、そのうち、漁船そのままを陸上で曳くというお祭りは、この常陸大津の御船祭、1件だけでした。

歴史や由来

神社の記録から、江戸時代中期の享保(きょうほう)11年[1726年]には、このお祭りが行われていたと推定されています。その頃は、海上を移動するお祭りだったようです。その後、港や海沿いの道路が整備されていくうちに、以前は海だったところが陸地になりました。しかし、その後も、お祭りの伝統をなるべく変えないように守ってきた結果、いまのような「漁船の陸上渡御」という特徴あるお祭りのかたちになったと考えられています。

船の大きさ、移動の方法

お祭りで使われる船の大きさは、全長約14メートル、幅が約3メートル、重さは約7トン。船上には、神輿、神職、御船歌を唄う水主衆(かこし)、笛・太鼓の囃子方を合わせた50人ほどが乗り、この船を総勢500人の曳き手が綱で曳いて移動します。船底と道路のあいだには、「ソロバン」という、大津の漁師たちの知恵が活かされた木の道具を敷いて、この上を船が滑走します。

その他のみどころ

神船の上では、茨城県内で北茨城市大津町にしか現存していない「御船歌(おふなうた)」も奏上されます。また、特に地元の子供たちが懸命に継承に取り組んでいる、笛や太鼓の「お囃子」にも、ぜひご注目ください。

※祭りの歴史や由来の詳細は 北茨城市教育委員会 編 2015『常陸大津の御船祭総合調査報告書』
※祭り以外の期間、船は北茨城市漁業歴史資料館(よう・そろー)に展示されています。

【文責：常陸大津の御船祭保存会】



令和6年大祭祭典の執行概要

5月2日 宵祭り

- 12:00 祭事事務所出発
- 13:00 東町より西町まで御船渡御(お船歌・お囃子奏上)
- 17:00 諏訪神社下
- 19:00 神社にて御霊写しの儀

5月3日 本祭り

- 7:00 常陸大津の御船祭式典
- 9:00 佐波波地祇神社において神事(御船歌・お囃子奏上)
- 10:00 御神輿出社・渡御境内にて揉み、正面参道から町内へ
- 10:20 中町より西町へ渡御
- 11:30 諏訪町お飯屋に安置休息
- 12:30 御神輿渡御・御船に乗船(神船)
- 13:00 諏訪町より東町まで神船(御船)渡御
- 18:00 東町にて御神輿下船
大津漁港協同組合第二市場付近お飯屋にて潮垢離神事
- 19:00 大津漁業協同組合第二市場付近お飯屋出発
正面参道(中町)より神社へ帰御
- 21:00 神社において神事、奉告祭

※諸事情により遅れる場合がありますのでご了承ください。